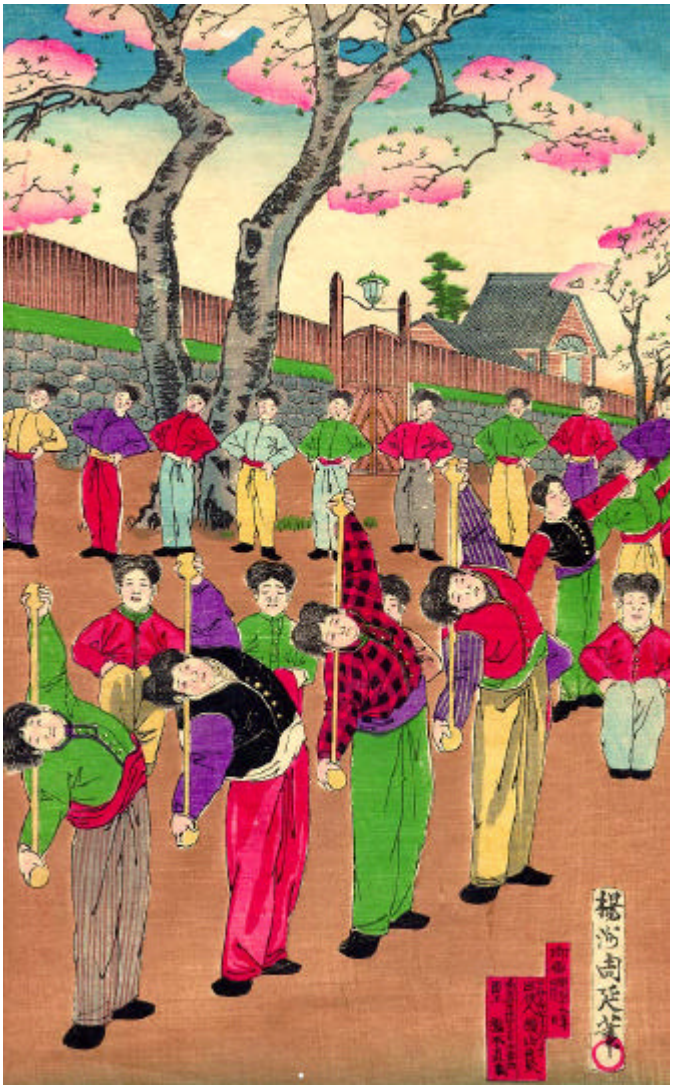
筑波大学体育科学系・附属図書館共催特別展

身体と遊戯へのまなざし

- 日本近代体育黎明期の体操伝習所（明治 11～19 年）-

筑波大学体育専門学群の前身である体操伝習所が、日本の近代体育の成立に果たした役割を、体育学の形成と指導者養成という視点から探る特別展



（揚洲周延、学校生徒体操ノ図、明治 19 年）

場所：　筑波大学中央図書館新館 1 階　貴重書展示室

期間：　平成 11 年 12 月 6 日（月）～12 月 17 日（金）

体操所から体操伝習所へ

能勢修一

「学制」（明治五年八月制定）も小学校教科に「養生法」（講義）、「体術」がみられるが、その方法を明示しなかった。その後の改正「教則」の「体操」（体術を改める）は、運動方法を指示したが、ほとんど欠科のままであったといわれる。

一方、文部省は、大坂英語学校宛「学第二千十六号」（明治十年十月五日：京都大学図書館蔵）の通達を行った。同通達によると「・・・体操術ニ老練セル学士一員ヲ海外ヨリ文部省ニ招致シ大中小及各種学校男女長少ノ度ニ随ヒ授業セシメ日時ヲ期定シ各学校へ輪次ニ順臨為致候ハバ該術ノ進歩層一層ヲ可加特ニ深奥ノ秘訣ヲ有スル伎倆ニモ非ザレバ其法ヲ練得シ遂ニ指導ノ任ニ堪ル者陸続輩出可致ト被信候・・・」とある。

文部省は、外人教師によって学校体操の振興をはかるとした。このような方針の公表は、本文をもって初めとするであろう。なお文部省は、太政大臣宛「体操所開設ノ伺」（明治十一年十月八日：国立公文書館蔵）を提出した。

体操所開設ノ伺

本邦教育ノ途輓近稍智育ノ一方ニ偏倚シ体育上ニ留意候者稀疎ニシテ自然心身両全ノ美ヲ欠キ候ニ付兼テ体育ノ一方ヲモ振興スベキハ目下ノ急務ニ有之候就テハ既ニ専門ノ外国教師一名ヲ聘致シ其方法等篤ト討究ヲ遂ゲ候間這回東京府下文部省用地一橋通町二番地ニ於テ体操所ヲ開設シ本邦生徒ニ適切ナル体操ヲ演習セシメ将来体操教員ノ地位ニ相立者ヲ養成候様致度候尤右費用ノ儀ハ文部省経費内ヨリ支弁可致候条至急御裁可有之度此旨相伺候也

明治十一年十月八日

文部卿　西郷従道

太政大臣　三条実美殿

この「文部省伺　体操所開設」に関する太政大臣決裁は、10月19日に終了した。さらに文部省宛の通告（国立公文書館蔵）は、同月21日付であった。「文部省布達」（国立公文書館蔵）は次の通り。

第五号　　＼伝習／
今般東京府下ニ体操所開設此旨布達候事
明治十一年十月二十四日
文部卿　西郷従道

ここでは、体操所に朱筆で「伝習」の二字を書き加えて「体操伝習所」と訂正した。同所は、明治初期の学校体操の振興ならびにスポーツの移入など日本近代体育の先達としての役目を充分に果たしたのである。

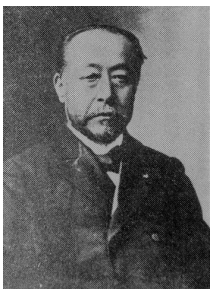
Ⅰ.体操伝習所の設立

1.設立に関わった人々

田中不二麻呂

（1845～1909）

名古屋出身。体操伝習所設置の推進者。文部省行政の中枢となって学校教育の整備にあたった。明治11年アメリカからリーランドを招聘し、体操伝習所を設置して体操法の選定、体操教員の養成に当たるところとした。



伊沢修二（1851～1917）

長野県伊那郡高遠出身。明治8年に渡米、明治11年帰国後、体操取調掛となり、新体操法実施についての具体案作成に当たる。同年、体操伝習所の主幹となり、体操伝習所の施設整備、教科課程作成に尽力した。

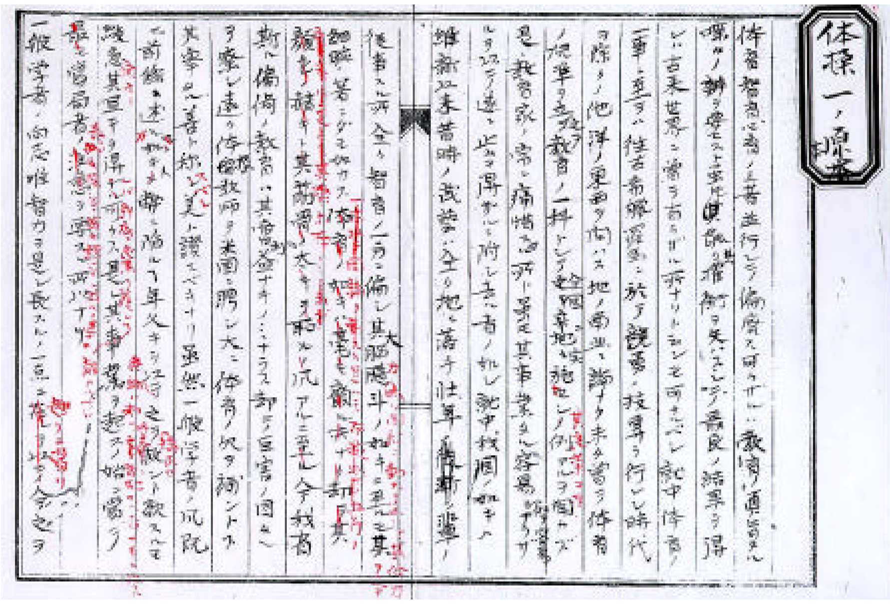
リーランド　G.A.（1850～1924）

米国アマースト大学を経て、ハーバード大学医学部卒。明治11年9月、日本政府の招聘により来日、体操伝習所教師として軽体操の指導者養成に従事した。彼の講義は『李蘭土氏講義体育論』に残されている。明治14年7月離日。

坪井玄道（1852～1922）

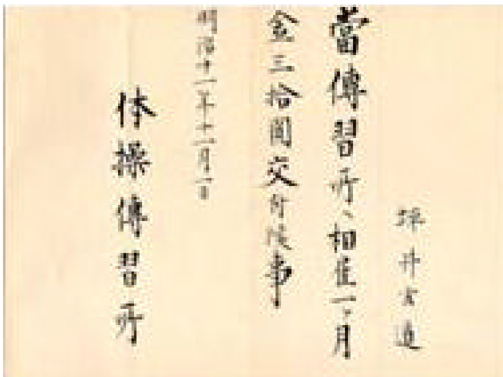
下総国葛飾郡中山村鬼越出身。師範学校で招聘教師スコットの通訳にあたった。のち体操伝習所設立とともにリーランドの通訳となり、リーランド離日後は体操伝習所の中心教員として軽体操を指導、併せて戸外遊戯の奨励に努めた。

2.体操伝習所に関する法令文書



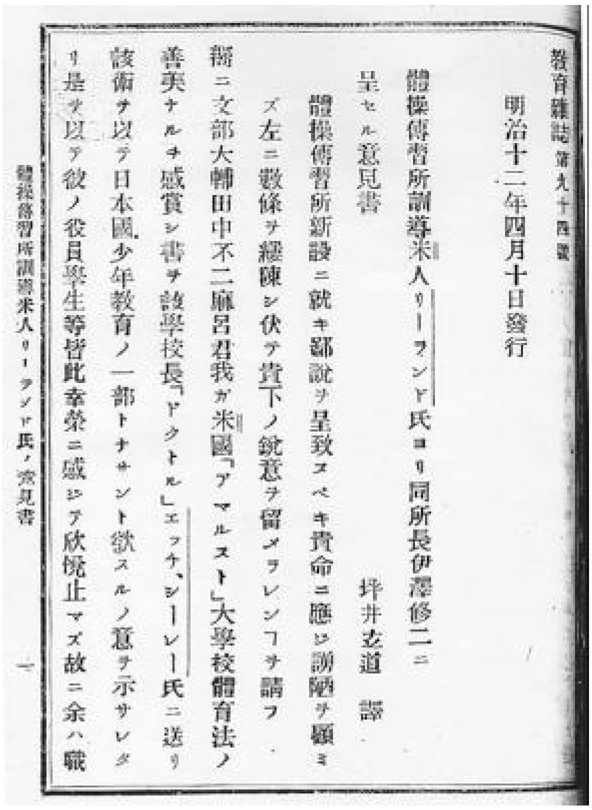
「新体操実施の方法」草案

体操取調掛の任にあった伊沢が、リーランドによる東京師範学校視察（明治１１年１０月１日）までの間に体操の振興方法についての具体案をとりまとめ、文部省に上申したものの草案。（上伊那郷土館蔵）



坪井玄道
當傳習所ヘ相雇一ヶ月
金三拾圓支給候事
明治十一年十一月一日
体操傳習所

坪井玄道が体操伝習所に勤務する際の給付金を示している辞令（市立市川歴史博物館蔵　明治 11 年 11 月付け）



教育雜誌 第九十四號
明治十二年四月十日發行

體操傳習所訓導米人リーランド氏ヨリ同所長伊澤修二ニ呈セル意見書
坪井玄道 譯

體操傳習所新設ニ就キ鄙説ヲ呈致スベキ貴命ニ應シ謭陋ヲ顧ミズ左ニ數條ヲ縷陳シ伏テ貴下ノ鋭意ヲ留メラレンコヲ請フ
曩ニ文部大輔田中不二麿君我ガ米國「アマルスト」大學校體育法ノ善美ナルヲ感賞シ書ヲ該學校長「ドクトル」エッチ、シーレー氏ニ送リ該術ヲ以テ日本國ノ少年教育ノ一部トナサント欲スルノ意ヲ示サレタリ是ヲ以テ彼ノ役員學生等皆此幸榮ニ感シテ欣悅止マズ故ニ余ハ職

體操傳習所訓導米人リーランド氏ノ意見書　一

リーランドより伊沢修二に宛てた体操伝習所の授業についての意見書（坪井玄道訳、教育雑誌 94 号　明治 12 年 4 月）

Ⅱ.体操伝習所の教育

１.体操伝習所主幹および教員

主幹

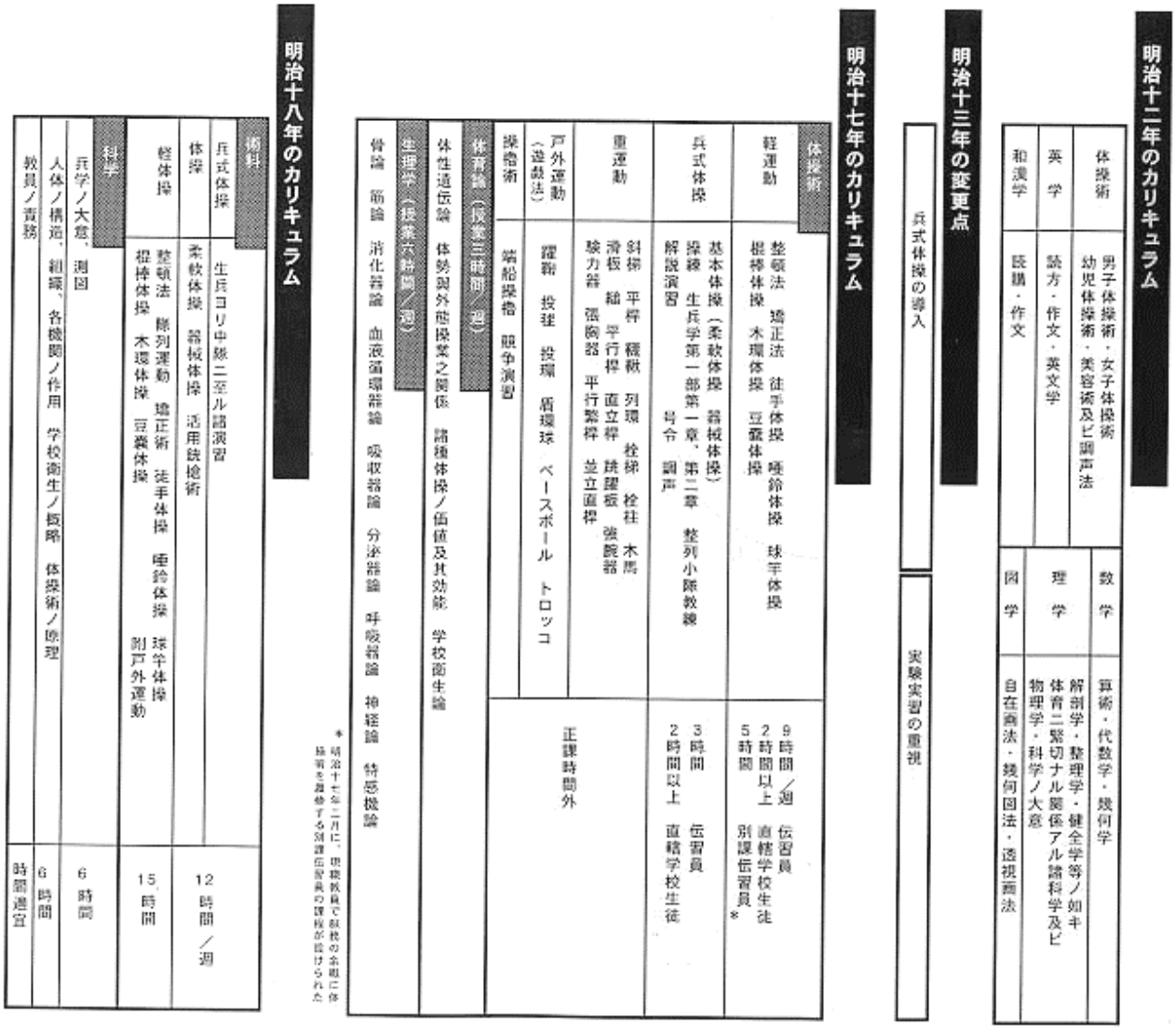
人物名	任期	備考
伊沢修二	明治１１年１０月　～　明治１２年１２月	東京師範学校長補兼任
折田彦市	明治１２年１０月　７日　～　明治１３年　４月１５日	
平山太郎	明治１３年　４月１５日　～　明治１４年　４月１３日	
小林小太郎	明治１４年　４月１３日　～　明治１５年　１月　９日	文部省書記官兼任
西村貞	明治１４年１１月１６日　～　明治１４年１２月２７日	主幹心得
	明治１４年１２月２８日	主幹となる
	明治１８年　８月　～	（東京師範学校附属）伝習所所長となる
野村彦四郎	明治１８年　８月　～	（東京師範学校附属）伝習所所長となる

教員

人物名	任期	備考
リーランド	明治１１年１０月　～　明治１４年７月２日	
坪井玄道	明治１１年１１月1日　～	
平岩 恒保	明治１２年２月２日　～　明治１５年　１月１２日	東京師範学校教員兼任
中島代次郎	明治１４年８月６日　～　明治１６年１０月２０日	
加藤重成	明治１４年８月６日　～	
中村信量	明治１４年８月６日　～	
田中盛業	明治１４年８月６日　～	
志賀　泰山	明治１５年１月１日　～	
細井　巌弥	明治１５年９月１日　～	
前野　関一郎	明治１５年９月１日　～	

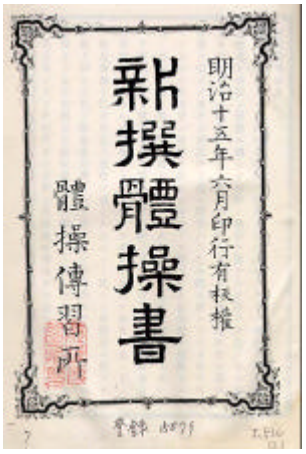
中島代次郎、加藤重成、中村信量、田中盛業は体操伝習所第一回卒業生。
細井岩弥、前野関一郎は第二回卒業生。

2.体操伝習所の教育課程



体操伝習所の授業は、伝習所規則に定められたカリキュラムに従って行われた。明治１２年の開講当初には、体操術・英学・和漢学・数学・理学が学科目として設けられたが、度々その内容が変化していった。開設の翌年９月には兵式体操が導入されている。その後明治一七年二月には、体操術、体育論、生理学の三つの大きな分類に従ってカリキュラムが構成されている。ここでは体操術の中に戸外運動としてベースボールやトロッコについての記述が見られる。さらに明治１８年の改正では、前年での三つの分類が、術科と学科の布達の分類へと変化している。このようなカリキュラムの変遷に伴い、伝習員一人あたりの授業時間は増加した。この傾向はとりわけ体操に顕著に見られた。

Ⅲ体操伝習所の教科書・蔵書
1.体操

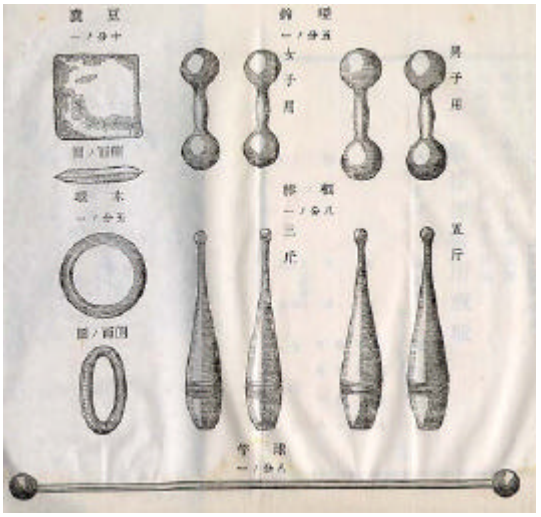


リーランドが行った実地教授の実際と諸説を坪井が訳述したもので当時の軽体操（普通体操）指導の手引書

唖鈴演習

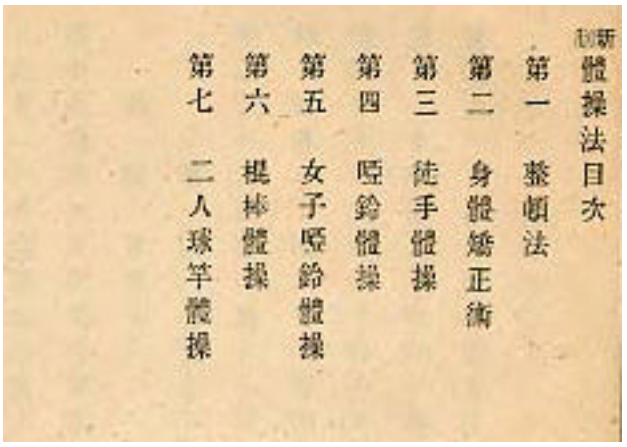
球竿演習

豆嚢演習



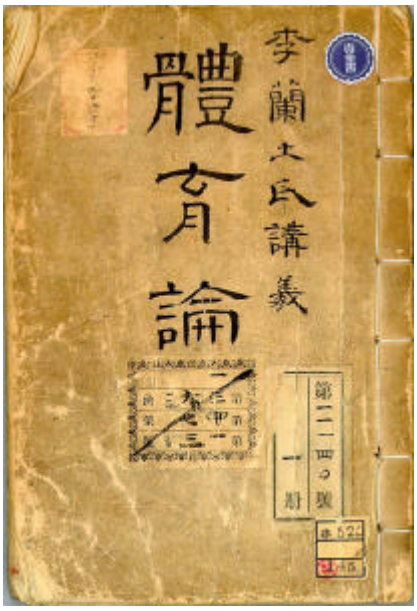
体操用具

体操伝習所第１回卒業生により出版された軽体操の指導解説書

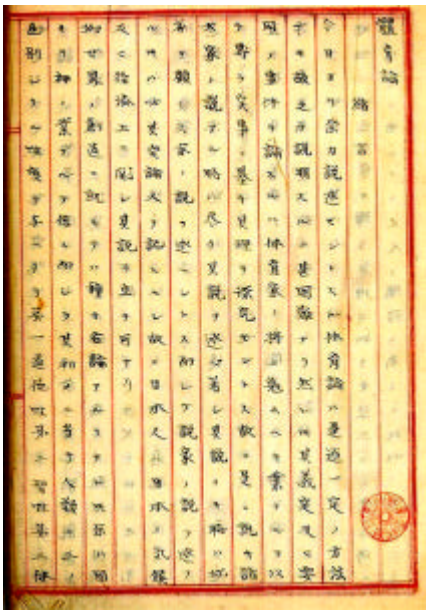


「新制体操法」の目次

坪井玄道・田中盛業編「小学普通体操法」明治17年）



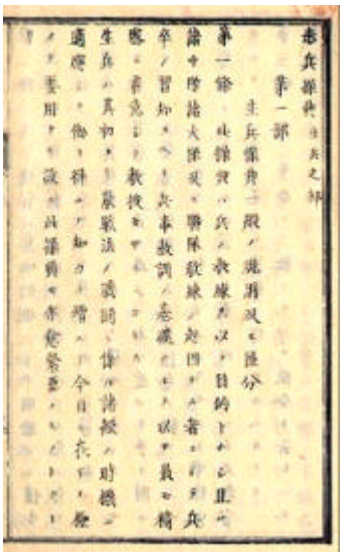
「李蘭土氏講義　体育論」
リーランドによる体育論の
講義を筆録したもので、坪井
玄道がまとめたと思われる



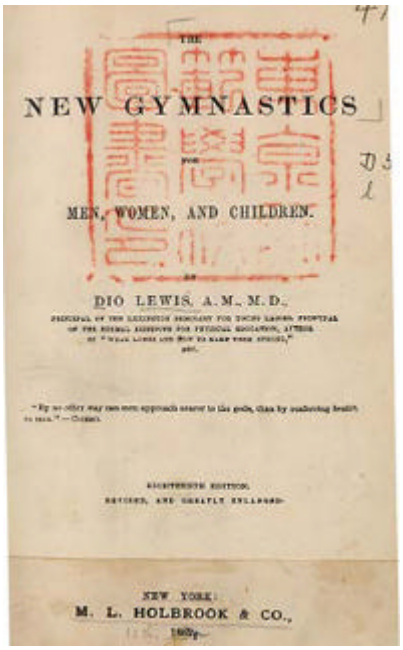
リーランドの体育論講義の
緒言部分

陸軍省「歩兵操典　生兵之部」
（明治 15 年　木下秀明氏蔵）

左記「歩兵操典」中表紙

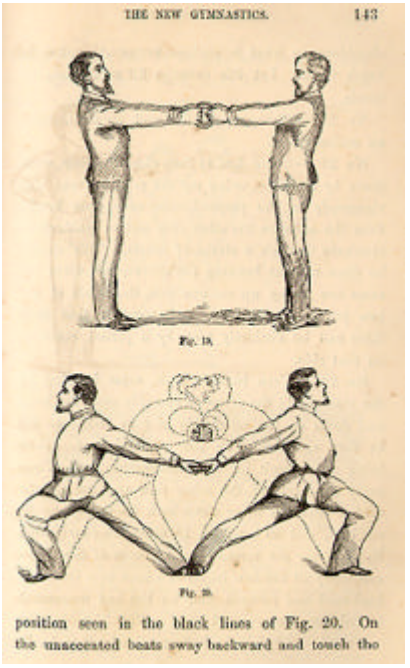


左記「歩兵操典」第１頁



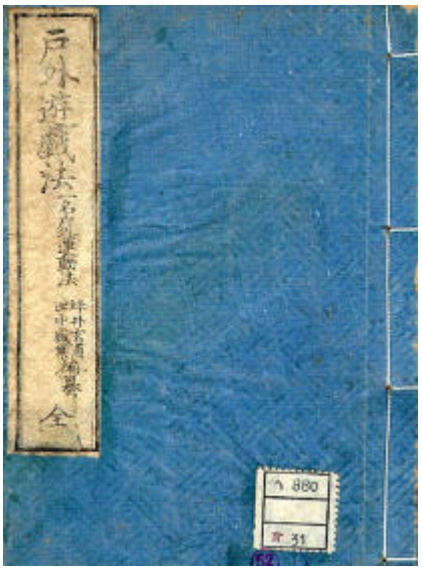
ダイオ・ルイス著「The New Gymnastics for men, women and children」(1882, New York) リーランドは 1876 年版の同書を参考にしたといわれる

左記文献中の Dumb-bell Exercises



左記文献中の Ring Exercises

2.遊戯の教科書・蔵書



坪井玄道・田中盛業編「戸外遊戯法 一名戸外運動法」(明治 18 年) 坪井が欧米の遊戯書を参考にして著した日本で最初期の遊戯書

「戸外遊戯法」の中のローンテニス

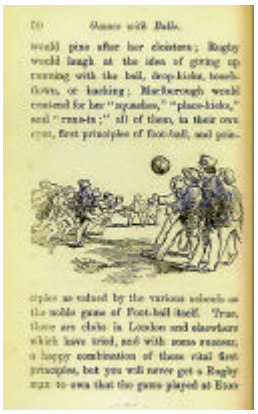
下村泰大編「西洋戸外遊戯法」(明治 18 年)ストレンジ著の「Outdoor Games」の抄訳を中心に編集したもの

「Boy’s own Book」(1880 New York) 少年の様々な遊戯を紹介した本

「Boy’s own Book」挿し絵

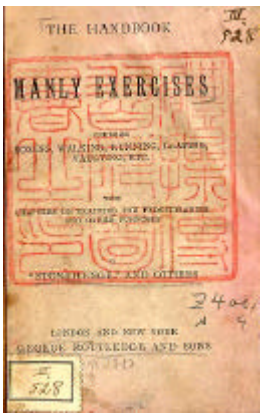
「Boy’s own Book」挿し絵

「Routledge’s Handbook of Ball-Games」(London)



左記文献の Games with ball の説明

「Routledge’s. Handbook of Football」



「The Handbook of Manly Exercises」(1883,London)

左記文献中の「Boxing」

3.生理・解剖の教科書と蔵書

三宅秀編「病理総論」（明治 14 年）
体育論の教科書として使われた

物部誠一郎訳「達爾頓氏生理書図式」
（明治 11 年）

左記文献中の図

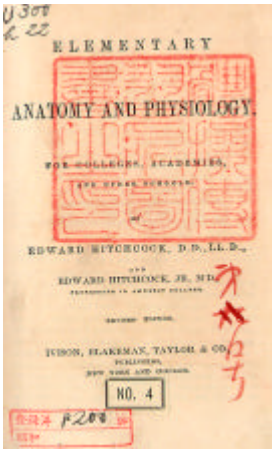
小林義直訳「カットル氏
生理養生論」（明治 14 年）

左記文献中の『不適当の着座位置』
の図

松村矩明訳「虞列伊氏解剖
訓蒙図」（明治 5 年）

郵上典表訳「華氏解剖摘要図」
（明治 11 年）

左記文献中の図

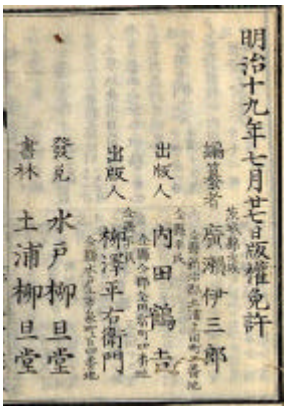


ヒッチコック「Elementary
Anatomy and Physiology」
(New York and Chicago)

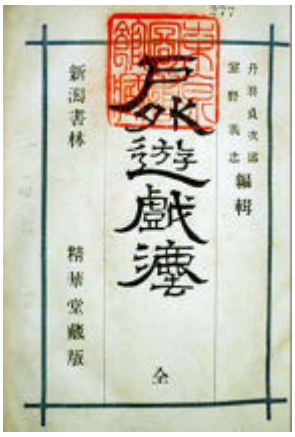
体操伝習所伝習員の著作

廣瀬伊三郎編「簡易遊戯法」（土浦　明治 19 年）

「簡易遊戯法」目次



「簡易遊戯法」奥付



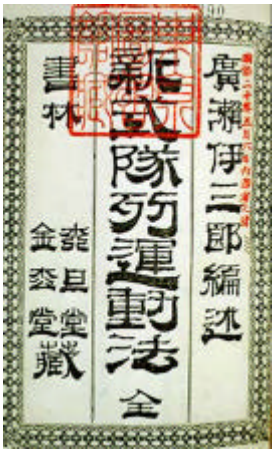
丹羽貞二郎、室野義忠編「戸外遊戯法」（新潟　明治 20 年　国立国会図書館蔵）

加藤駒吉編「普通小学体操教授法」（福岡　明治 16 年　国立国会図書館蔵）

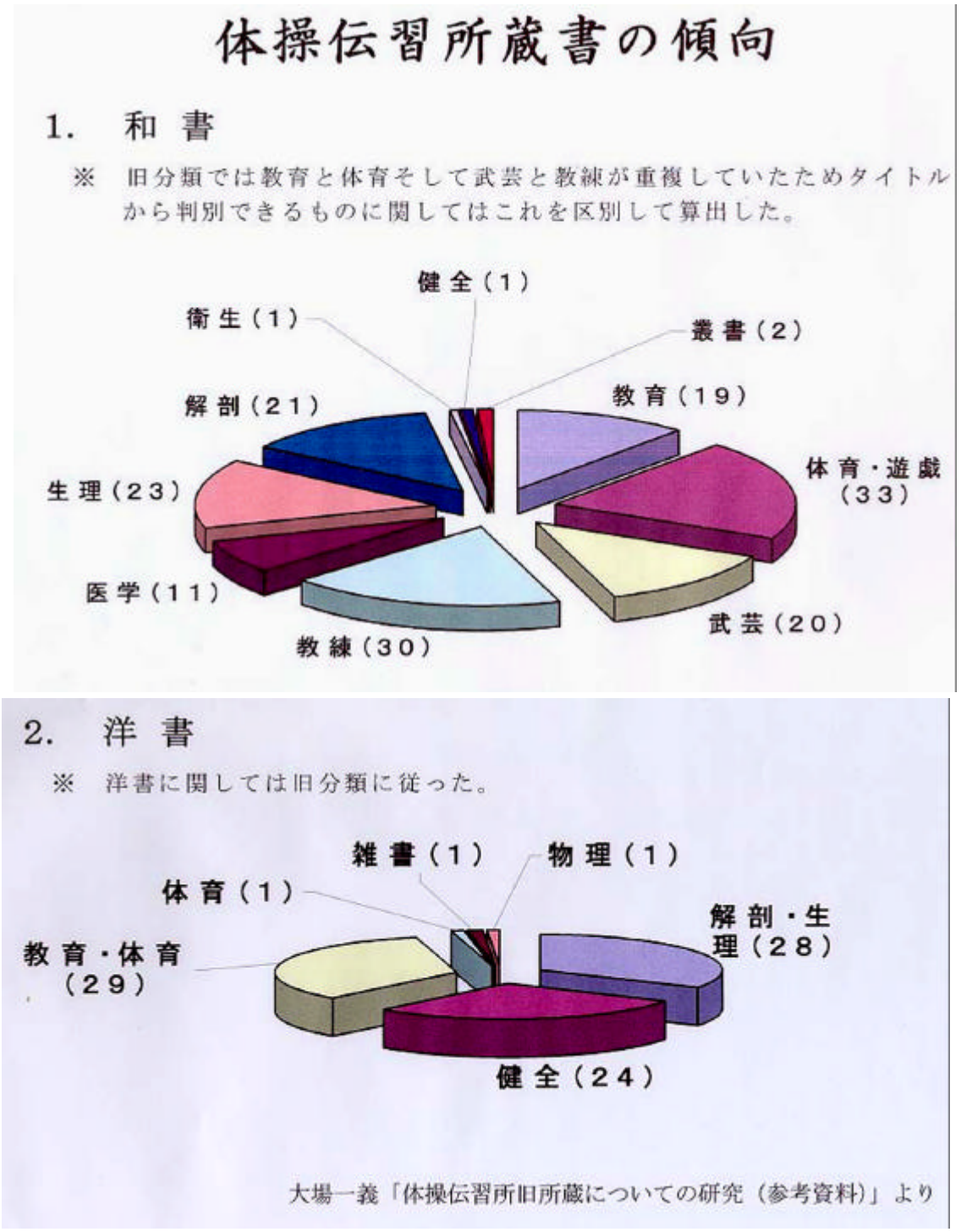
廣瀬辰一郎編「小学戸外遊戯法」（京都　明治 19 年　国立国会図書館蔵）の口絵

横井琢磨編「体育論」（岡山　明治 16 年　国会図書館蔵）

松田正典編「普通体操書」（名古屋　明治 18 年　国立国会図書館蔵）

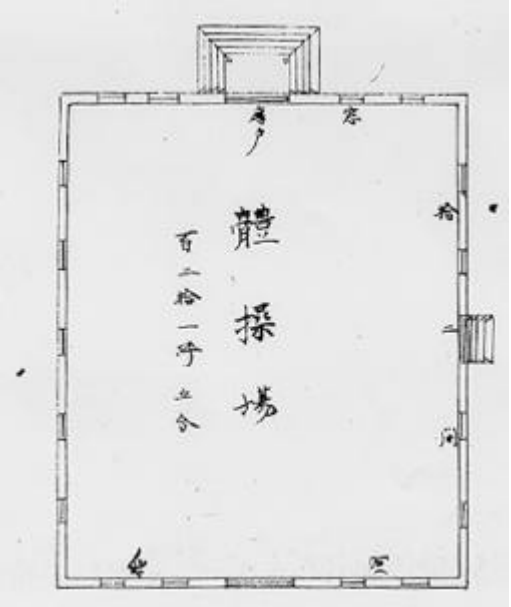


廣瀬伊三郎編「新式隊列運動法」（土浦　明治 20 年　国立国会図書館蔵）



体操伝習所は明治 18 年度時点で和書 4945 冊、洋書 582 冊を所蔵していたことが、大場一義・元本学教授の研究で明らかにされている。上記の図は、このうち体育・教育・医学関係の図書で、現在、本学に所蔵されているものの内訳である。

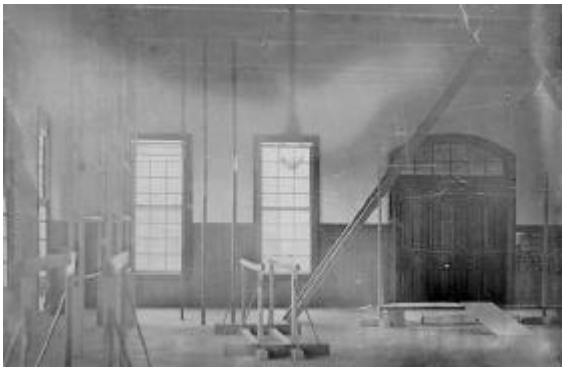
Ⅳ.体操伝習所の施設と体操用具



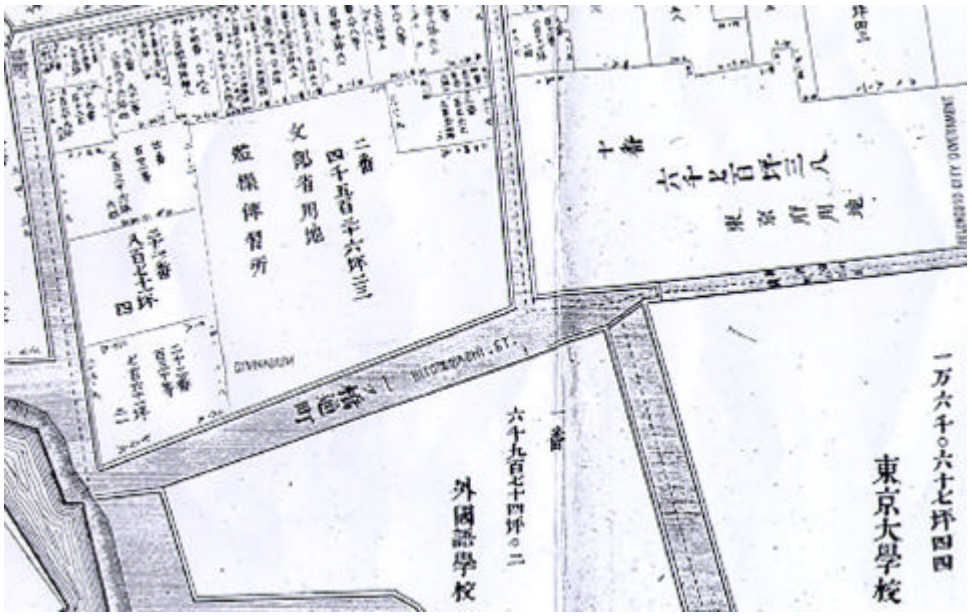
体操伝習所体操場見取り図（故大場一義氏蔵）

体操用具（棍棒、木環、唖鈴、奈良女子大蔵）

体操伝習所体操場写真（木下秀明氏蔵）



体操伝習所体操場内部（木下秀明氏蔵）



明治19年体操伝習所付近
（都立中央図書館蔵）

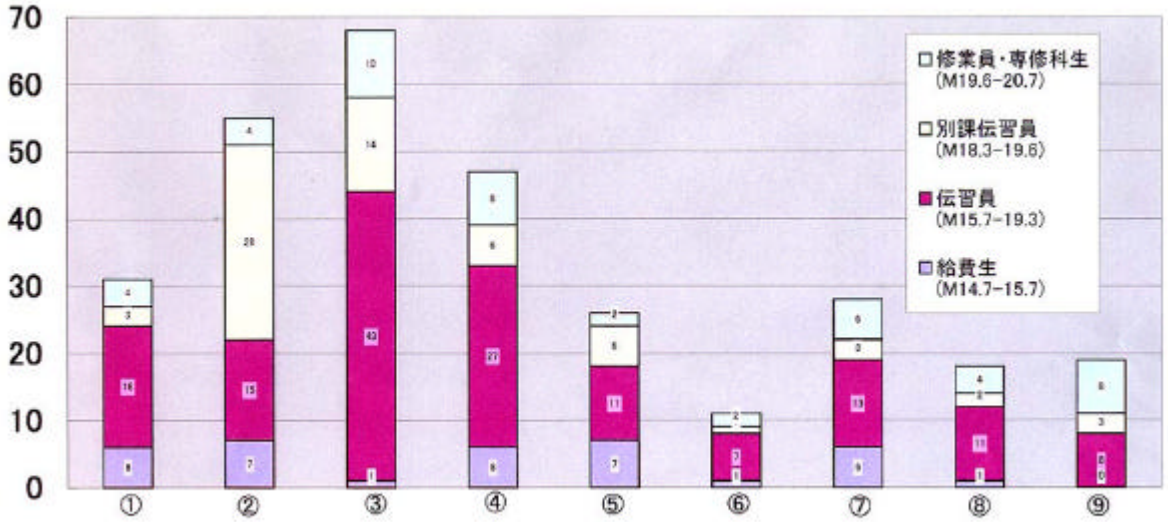
Ⅴ.体操伝習所の伝習員

1.体操伝習所伝習員の種類

体操伝習所の伝習員には大きく分けて 4 つの種類が存在した。「給費生」「伝習員」「別科伝習員」「修業員・体操専修科生」であった。

給費生	給費生は試験によって選抜され、修学期間２年を基本として生徒１名につき１ヶ月６円の学資金が支給された。給費生は第１回生（修業年限が２年３ヶ月）と第２回生（修業年限が１年９ヶ月）のみであった。明治 11 年の体操伝習所規則によると給費生となるには 18 歳以上 20 歳以下身長 5 尺以上、健康で天然痘の種痘を終え、肺病その他の不治の病に関係ないという条件を満たしていることが必要であった。また和・漢・英の素養を持ち、算術を理解する学問的条件を満たしていなければならなかった。給費生の修業年限は 2 年であったが第 1 回生は 2 年 3 ヶ月、第 2 回生は 1 年 9 ヶ月であった。
伝習員 **（府県派遣）** **（自費志願）**	明治１４年７月２日にリーランドが帰国し、体操伝習所は同年９月５日から伝習員制度を採用、府県派遣や自費志願の伝習員に体操術を授くる所に変わった。明治１５年の「伝習員規則」によれば体操術を本科として体育論及生理学を副科とし、修業期間は６ヶ月を基本とすることになった。伝習員は明治１５年１月入学の第１回から明治１９年３月入学の第 7 回まで続いた。
別課伝習員	明治１７年２月の伝習所規則の改正によって「別課伝習員規則（丙号規則）」が制定された。以後、別課伝習員のコースが伝習員のコースと並列して設けられることになった。別課伝習員は公務の余暇に業を修めるものが多かったために、充分修業に打ち込めないものが現れた。
修業員 **体操専修科生**	明治１８年１１月、文部省は兵式体操を兼修した体操科教員を養成するため、体操伝習所に修業員制度を設けることにした。主な入学資格は、常備現役を離れて１年以内の陸軍歩兵下士で、年齢３５歳以下の者とされた。修業期間はおよそ４ヶ月であった。修業員は明治１９年１月２０日に入学し、制度上、体操伝習所が廃止された後の同年６月に２６名が卒業している。高等師範学校の体操専修科も実質的にこの修業員制度と同様であり、明治２０年７月に２２名が卒業した。これらの修業員制度と体操専修科は、明治１９年の学校令によって体操科に導入されることになった兵式体操に対応するための体操科教員養成機関であったといえる。

出身地域別にみる各課程卒業生数



①北海道・東北 ②東京 ③首都圏(東京除く) ④北信越 ⑤東海 ⑥近畿 ⑦中国 ⑧四国 ⑨九州

伝習員の身分構成

伝習員の種類	給費生	伝習員						別課伝習員				修業員・専修科生		合計
身分/卒業年	M.14.7	M15.7	M.16.7	M.17.6	M.18.3	M.18.7	M.19.3	M18.3	M18.7	M19.3	M19.6	M19.6	M20.7	
士族	17	24			5	7	8	12	10	8	17			108
平民	4	4			13	20	21	8	12	12	8			102
合計	21	28	22	17	18	27	29	20	22	20	25	26	22	297 / 210

『東京高等師範学校一覧 自明治20年4月 至る明治21年3月』より

明治20年における伝習員卒業生の進路

伝習員の種類	給費生	伝習員						別課伝習員				修業員・専修科生		合計
進路/卒業年	M.14.7	M15.7	M.16.7	M.17.6	M.18.3	M.18.7	M.19.3	M18.3	M18.7	M19.3	M19.6	M19.6	M20.7	
尋常師範学校教員	4	8	11	2	2	2	7					17	10	63
尋常師範+尋常中学教員		3	1	2		2	2						2	12
尋常中学校教員	6	3	1	1	1	2	2					2	4	22
尋常師範+訓導			1	2	1	3	1							8
高等中学校教員	3	1					2					3	3	12
小学校訓導等		3	3	3	2	12	6							29
高等小学校				1										1
高等師範学校	1													1
その他の学校の教員					1		2					1	1	5
その他の教育機関への進学	2	3		1	2	1								9
役人	2	1	3	1	2	2								11
会社			1											1
議員				1										1
非役	1	3			6	3	7					1		21
不詳	1			2	1							2	2	8
死亡	1	3	1	1										6
合計	21	28	22	17	18	27	29	20	22	20	25	26	22	297 / 210

『東京高等師範学校一覧 自明治20年4月 至る明治21年3月』より

給費生の身分は士族が多い。一方、府県派遣の伝習員では、平民が多くその傾向は逆転している。別課伝習員では均等化している。全体としては士族と平民が等しい割合となり、伝習所の民主化と能力主義がうかがえる。

進路は、その圧倒的多数が尋常師範学校に勤務している。

伝習員の著作

伝習員は卒業すると各地に赴き、修得したことを普及した。卒業生の手によって発行された本は 95 冊に及ぶ。卒業生のうち 44 人が何らかの形でこれらの本の出版に携わった（体操伝習所発行の本を含めると総数 101 冊）。

錦絵にみる体操と遊戯（体操競技之図）明治 25 年

Ⅵ.体操伝習所の役割と貢献

日本における近代体育の実践的、理論的研究の源流は、体操伝習所に求めることができる。いかに富国強兵を志向する身体教育の任を担っていたとはいえ、体操伝習所の「体操」への取り組み、すなわち「体育」研究の役割を「兵力」や「国民体力」のみに還元できるものではない。リーランド博士は体操の生理学的、医学的効用を伝習員に周知する一方で、「打球(クリケット)、蹴鞠(フートボール)、游泳(スイミング)、競舟（ボーテング)、皆益アリテ良ナルモノナリ」と説いた。体操伝習所の「体育」は、生理学、解剖学、衛生学、健全学等の医学的理論によって下支えされ、その理念、内容と方法が教育学によって構成された。しかも「体操」、「遊戯」、そして「体育論」を含むこの総合的な「体育」概念は実践を経て結実したのであった。体操伝習所が最初にもたらした体操の教科書、『新制体操法』、『新撰体操書』（共に明治 15 年）は、坪井玄道と田中盛業の『小学普通体操法』（明治 17 年）と『戸外遊戯法』（明治 18 年）や、遊佐盈作の『新撰小学体育全書』（明治 17 年）のような本によって補足された。体操伝習所の「体育」は、9 年間という決して長くないその存続期間に、今日の「体育学」へと発展し得る全体性を胚胎したのであった。

21 世紀を展望する現在、グローバリゼーションが叫ばれている。体操伝習所が存在した時代も、近代化、西洋化という、グローバリゼーションの時代であった。体操伝習所は外来の体育・スポーツを、排除や拒否ではなく、受容と異化によって、日本の教育、日本の文化へと変容させ、そして究極的に日本の風土に血肉化させたのであった。体育・スポーツの 21 世紀を展望するにあたり、我々は、体操伝習所と伝習員たちのこうした姿勢の柔軟さと視野の広さに学ぶことが多い。

筑波大学体育史研究室
阿部生雄　大熊廣明　真田久

謝　辞

この特別展は以下の機関および人々の協力を得た。記して謝意を表したい。

協力機関

国立国会図書館、国立教育研究所、都立中央図書館、市立市川歴史博物館、
上伊那郷土館、奈良女子大学

協力者（五十音順）

大久保英哲、大場範子、木下秀明、坪井謙吉、坪井三郎、能勢修一
筑波大学体育史研究室大学院生・学生　（秋元忍、金哲雲、後藤光将、小林信彦、
南宮令皓、橋本美湖　福本全、藤本章、美山治、小森誠）

1999 年 12 月 6 日

共催者

体育科学系

宮丸凱史（体育科学系長）、勝田茂（体育専門学群長）
阿部生雄、大熊廣明、真田久、宮地力

附属図書館

板橋秀一（附属図書館長）、湯浅冨士夫（附属図書館部長）、
小西和信、栗山正光、篠塚富士男、福島裕子、大沢類里佐、
熊谷隆、高島恵美子、岡部幸祐

身体と遊戯へのまなざし

- 日本近代体育黎明期の体操伝習所（明治 11 年～19 年）-

体操伝習所第一回卒業生の記念撮影　（「スポーツ八十年史」日本体育協会 1959 年）より
前列中央左 リーランド博士　右 折田彦市主幹　生徒の着服は体操服

Ⅰ体操伝習所の設立

Ⅱ体操伝習所の教育

Ⅲ体操伝習所の教科書と蔵書

Ⅳ体操伝習所の施設と体操用具

Ⅴ体操伝習所の伝習員

Ⅵ体操伝習所の役割と貢献